

## ◆俯瞰メルマガ第 83 号◆

---

### ◆時候のご挨拶◆

少しずつ冬を感じさせる日が増えてきました。もう 12 月です。あっという間の 1 年です。年賀状の準備が近づきます。喪中で年賀辞退のハガキがパラパラと入ってきます。天寿を全うされたご両親の場合はともかく、配偶者を亡くしたという場合、心が痛みます。友人が亡くなり、その配偶者からご連絡頂いた場合は、まだ若いのにと感じてしまいます。

---

- さらに混乱するヨーロッパ
  - 新冷戦の影響を受け始めた中国経済
  - 日産ゴーン 権力は腐敗する
  - 工作機械見本市 JIMTOF に行ってきました
  - 俯瞰サロン
  - 俯瞰のクッキング “ある日の食卓”
  - 俯瞰の書棚 “「100歳の秘訣」歌代幸子”
  - 知識の俯瞰 知的腕力を鍛える 4
  - 雑感・私感
- 

### ◆さらに混乱するヨーロッパ◆

依然としてヨーロッパの混乱は続いています。まずイギリスの EU 離脱ですが、いよいよギリギリの所まで来ました。土壇場でジブラルタルの問題が出ましたがこれも妥協点を見つけて何とかしのぎました。そして EU との最終合意に到達しましたが国会の承認が得られるか不透明です。EU 加盟国も合意なき離脱を想定した対策をとっているようです。その場合空港や港湾で大混乱が起こると予想されています。

国民投票を再度やれという世論も強く、元首相のトニー・ブレア氏とジョン・メージャー氏は国民投票を再度行うべきだと主張しています。私は土壇場でメイ首相が自爆的な国民投票をすることもありうると思っています。

合意なきイギリスの EU 離脱があれば、世界経済に大きな衝撃を与える事は必至で、それなくても米中の貿易戦争で疑心暗鬼になっている金融市場は過剰に反応して世界的な経済危機のトリガーになりかねません。すでにニューヨーク市場はゆっくりと下がっています。とりわけ相場を引っ張ってきたテック企業の株価が大幅に暴落しています。

さらにヨーロッパにはイタリア予算の問題があります。ポピュリズムで政権を取ったイタリア政府は大衆受けする政策を実行するために、EU のルールを破る財政支出の予算案を EU に提出しましたが、当然 EU は拒否しました。しかしイタリア政府は強気

で、赤字予算であっても経済成長によってとり戻せると予算案の修正を拒否しました。これに対して EU は、制裁を発動することを決めました。EU としては、それだけでなくもタガが緩んだ EU を引き締めるために、安易な妥協はできません。これでイタリアが EU 離脱を言い出すとは思いませんが、EU とイタリア政府の対立も新たな経済危機の引き金になりかねません。

フランスのマクロン大統領も支持率 25% と人気がありません。労働改革はなんとか乗り切りましたが、環境保護のための燃料増税という理想に対し、直接生活に影響する燃料値上げは国民の猛反発を引き起こし、全国的にデマが広がり、パリでは暴動化しています。

ドイツのメルケル首相は選挙の敗北を受けて党首を辞任しましたが、首相は 2021 年までやると言っています。しかし、かつてのグローバルリーダーの役目は無理でしょう。マクロン大統領とメルケル首相でヨーロッパの統合を進める理想はしぼんでいきます。したがって、相対的にヨーロッパに対するロシアの影響力は強くなります。最近のウクライナのニュースもほとんど聞くことがありません。

パリで第一次世界大戦 100 年の行事がありましたが、トランプ大統領は単独行動や孤立が目立ち、欧米の分断がはっきり示されました。マクロン大統領はポピュリズムの台頭に対し、悪魔が再び力をつけてきたと危機を訴えましたが、特に各国の首脳がこの認識を共有するような感じはありません。

ヨーロッパの統合、開かれたヨーロッパという理想は、反移民政策で力をつけたポピュリズムの前に影が薄くなってきました。民主主義の後退は、国際情勢を不安定なものにします。

EU と英国、離脱の最終草案に合意ー緊密な経済関係を維持へ

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2018-11-22/PILHWG6JIJUP01>

英国の「合意なき離脱」で何が起きるか

<https://jp.reuters.com/article/britain-eu-deal-idJPKCN1NR08F>

英とスペイン、ジブラルタル巡り合意 EU 離脱へ前進

<https://www.cnn.co.jp/world/35129142.html>

イギリス世論調査、EU 残留派が離脱派をまた上回る

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/11/eu-146.php>

強気イタリア、経済成長止めても…EU、制裁手続き開始

<https://www.asahi.com/articles/ASLCN7W2BLCNUHBI02X.html>

マクロン仏大統領の支持率、25% に低下 世論調査

<http://www.afpbb.com/articles/-/3198139>

フランスのデモで衝突、8人負傷 マクロン大統領がデモ隊非難

<https://www.cnn.co.jp/world/35129141.html>

マクロン仏大統領、「国際協調」狙うも分断浮き彫りに 第一次大戦終結記念式典で

<https://www.sankei.com/world/news/181112/wor1811120029-n1.html>

メルケル時代の終わり？ EUに広がる不安、笑う右翼政党

<https://www.asahi.com/articles/ASLBZOPSHLBYUHBI03W.html>

国際社会はどうか？ ドイツのメルケル首相、政界からの引退準備を進める

<https://www.businessinsider.jp/post-178448>

#### ◆新冷戦の影響を受け始めた中国経済◆

米中の貿易戦争は中国経済に徐々に悪影響を与えています。輸出産業の雇用は減り、自動車を中心とした国内消費も落ち込んできました。この影響は中国経済に大きく依存する東南アジアの経済にもじわりじわりと効いてきます。日本にもその影響が出てきます。

単なる貿易戦争ではなく新たな冷戦ですから、アジアの国際情勢にも影響し、先般のAPECでは共同宣言が出せませんでした。中国とアメリカの間に立つアジア諸国は立ち位置に迷っています。いつかは、中国とアメリカのいずれを選択しなければならない日が来るかもしれません。この意味ではアメリカファーストの政策は極めて危険です。

中国政府は財政の健全化と財政出動による景気政策とのジレンマに悩んでいるようで、日本にアドバイスを求めたという報道があります。どうしたら低金利で国債が発行できるのかという問いです。日本の真似をしても仕方がないと思いますが、背に腹は代えられないという事でしょうか。

一方、米中の貿易戦争は日中関係の改善という長年の懸案を解消しつつあります。依然として尖閣列島での挑発は続いているようですが、経済面での関係改善は目を見張るものがあります。そして日本が中国の一帶一路に協力する形で、アジアでのインフラ投資を推進することになりました。日中が入札で競合するのではなく協調していくということは、悪いことではありません。

貿易戦争は一方向的に中国に不利に働いているわけではなく、既にアメリカ国内にもマイナスの影響が出ています。1人勝ちのアメリカ経済も、輸入価格の高騰や利上げによる住宅販売の減少など徐々に景気後退が目立ち、株式市場はすでに売り気配が強く、東京市場にもその影響が出てきました。ニューヨーク市場に連動して東京市場も下げました。この状態に英国のEU離脱、イラン危機などの事態の急変があれば世界的な経済不況に一気に入る危険性があります。

米中貿易摩擦激化 大丈夫か中国経済」

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/308959.html>

A P E C 首脳宣言できず

<https://www.asahi.com/articles/ASLCL5S0FLCLULFA007.html>

貿易戦争で増大する中国債務（十字路）

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ03793167019112018ENI000/>

国債消化で日本に“指南” 求める 貿易戦争で苦しい中国、財政政策拡大か

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/181123/mcb1811230630001-n2.htm>

縮みゆく中国の民間経済 習近平の国有企業重視に経済悪化が追い打ち

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/11/post-11283.php>

日中首脳会談で意外な新しい友情 米国との貿易摩擦で接近やむなく

[tps://www.bbc.com/japanese/45994275](https://www.bbc.com/japanese/45994275)

米「独り勝ち」経済に陰り＝貿易戦争の影響も

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2018102700422&g=int>

米市場失速明らか 貿易摩擦・トランプ氏…投資家が懸念

<https://www.asahi.com/articles/ASLBT52WQLBTULFA01G.html>

#### ◆日産ゴーン 権力は腐敗する◆

日産のゴーン会長逮捕のニュースは、日本はおろか世界中のメディアで大きく取り上げられました。詳細はまだ不明ですが、有価証券報告書の不正記載、会社資産の不正流用はよくある話ですが、ゴーン会長の強欲ぶりが明るみに出ました。

英国の歴史家ジョン・アクトンの言葉「権力は腐敗する、絶対的権力は絶対に腐敗する」が有名です。

ただ投資家に与えた影響としては、同じ有価証券報告書の不正では東芝事件の方が、はるかに大きいです。当時の経営者に対して、何の刑事的な処分がなかったという対応の違いが気になります。何か特別の意思が働いたのではないかと、多くの人が思うでしょう。日本の経営者には検察は甘いのでしょうか。例えば、東京電力の福島原発のメルトダウンの原因となった津波対策について、検察は不起訴処分になりました。検察審議会で起訴相当ということで刑事裁判になっています。

もともと企業組織は民主制ではなく専制政治が一般です。もしくは派閥抗争です。皮肉ですが、派閥抗争の方が相互が牽制しあい不正が出にくいかもしれません。

過去の大きな企業事件もすべて絶対権力を握ったトップの暴走です。古い話ですが KDDI、住友銀行などが典型です。最近、企業の不正が明るみに出ていますが、もしかしたら独裁的な経営者の企業で、正常なコミュニケーションがなくなり、社員の倫理が下がり、不正が組織に日常化しているのかもしれない。

ほとんどの経営者が交際費と称して、個人の遊興費を社費でまかなっている事は周知です。この事件を機会に、襟を正す経営者が出れば日本も少し良くなります。

#### ◆工作機械見本市 JIMTOF に行ってきました◆

ビックサイトで開かれた国際工作機械見本市に行ってきました。タイトル通り工作機械が並べてあります。改めて何十年も変わらない景色だなと思いました。機械を作って売るといふビジネスが続いているわけです。そして、ほとんどメンバーが変わっていません。幾多の不景気があっても、この業界は生き延びています。それぞれの持ち場が決まっているのでしょう。インタツリー4.0の展示を期待してきた人は、がっかりたでしょう。展示の形態に大きな変化が必要だと感じました。

私は機械ではなく、IOT や人工知能、クラウドコンピューティングの応用を中心に見ました。

IOTについては、多くの企業が展示していました。しかし、ほとんどが情報の見える化の段階で、それを使った高度のサービスはごく僅かでした。人工知能の応用についても期待していましたが、ほとんど見るべきものは有りませんでした。出展企業がほとんど工作機械会社ですから、しかたありませんが。IOTや人工知能を使ったサービスを開発できるエンジニアが、この業界にはほとんどいないのでしょう。幸い市場規模が小さいので Google のような怪物は参入してこないのかもしれませんが。

自動車業界もエンジンを中心としたハードの革新に注力していましたが、気がつくとも最大のライバルは Google だった、となりました。工作機械業界にも必ず強力な新規参入があるでしょう。

私は今、DMG 森精機という工作機械会社で先端技術者の養成をしています。IOT と人工知能、クラウドコンピューティングの3つの先端技術を使いこなせる技術者です。外から人材を獲得とする事は、ほぼ不可能です。もともと国内にごく少数しかいませんから。始めて1年半ほどになりますが、研究者にするのでなければ、比較的短期間で養成できることがわかりました。条件はあります、若いことと線形代数の知識があることです。ですから新入社員を研修しています。今回の展示を見て、ある意味ほっとした所もあります。まだ間に合うと。

DMG 森精機 - 先端技術研究センター

<http://www.etl-dmgmori.com/>

#### ◆俯瞰サロン◆

第61回の開催は、調整中です。

#### ◆俯瞰のクッキング “ある日の食卓” ◆

最近は献立がマンネリ化してるようで、ここでご案内するような料理を作っていません。強いていうと、肉なしの回鍋肉、具無し味噌無しのお味噌汁でしょうか。

肉なし回鍋肉は、たまたま冷蔵庫にキャベツが半分あって、そろそろ処分した方がいいと思い、青い部分の葉を筋をとって、手で適当にちぎり回鍋肉としました。残った部分はザクザクと切って塩を振り、少し置いてから塩もみしてコールスローにしました。食品スーパーにコールスローのドレッシングが買ってありましたので、それを使用しました。

回鍋肉は、ただ肉がないだけで、つくり方は同じです。中華鍋で湯を沸かし、少しサラダオイルを入れ、キャベツの葉を少しずつしゃぶしゃぶのように入れてすぐに引き上げます。あくまでもさっと。

その鍋の湯を捨て、サラダオイルを大さじ1杯入れ、ちぎって赤唐辛子を1本、そして長ネギの刻んだものを入れて炒めます。香りが出たら合わせ調味料（味噌大さじ1、甜麺醬大さじ2分の1、酒大さじ1）を入れて煮立たせ、キャベツを戻します。あくまでもタレを絡せるだけです。言ってしまうと、キャベツ味噌炒めですか。

具無し味噌無しのお味噌汁ですが、単なる思いつきです。基本的に味噌汁の出汁は前の晩に仕込みます。煮干の頭とワタを取ったもの10本、昆布10センチ四方をハサミで刻みます。基本的に昆布は、味の濃い羅臼昆布を使います。そして干し椎茸ひとつ、水600cc。これを鍋に入れ15分ほど煮出します。その後、これを濾して具を煮て、味噌を入れて仕上げます。

その日は青森で買ってきた高価な焼き干しを使用しました。焼き干しは100グラム2000円くらいする高価な代物です。昆布も羅臼昆布という高級品です。冬菇も立派です。なぜかこれを濾して捨てるのが惜しいと思い、少し食塩を入れて、そのまま食することにしました。出汁もよく出ていて潮汁のようです。ただ煮出した焼き干しは、かなり噛みでがありました。結論として、やはり味噌汁は安い煮干の方が捨てること躊躇せずに済みます。昆布も、味噌汁の具としては硬いですね。椎茸は、茎をとって切れば身として食べられます。

今回はしょうもない報告で申し訳ありません。

#### ◆俯瞰の書棚 “100歳の秘訣” ◆

今回は「100歳の秘訣」歌代幸子 新潮新書 2017です。

人生100年時代と言われていますが、100歳を超えてなお未来に対し挑戦している方々のインタビューのまとめです。いずれも太平洋戦争という、想像を絶する苦難の時

代を生き抜いた方々ですから、たくましが中途半端ではありません。そしてその過程で獲得した強い精神力で、現在もなお未来に挑戦しているお話を聞くと、自分自身がまだまだ若輩で、修行の途中だと実感させられます。私が読みながらマークした部分の一部をご紹介します。壮絶な人生ですから、読んでいて目頭が熱くなる場所もいくつもありません。

ぜひこの本をお読みになる事を勧めます。

フォトジャーナリスト 笹本恒子 104歳

「ライカを手にしたのは、日中戦争のまっただ中。生まれ変わっても「フォトジャーナリストになりたい」

プロゴルファー 内田棟 101歳

「軽井沢ゴルフ倶楽部で会った白洲次郎、田中角栄ら一流の人には信念があった。」  
「私はいかに厳しくとも部下を育てることこそが日本人の精神であらねばならないと思っていたのです」

精神科医 高橋幸枝 101歳

「これまで100年生きてきて、つくづく思うのは、人生というのは半分が自分の努力、あとの半分は運命のような気がします」

画家 入江一子 102歳

「納得いくまで描いては消し、『建設と破壊』を繰り返す。そうして絵に魂を込めることで、画面の中から『人を引っ張る力』を描き出すことを学んだ。」  
「どんな土地へ行っても、絶対にその場で描く。印象だけじゃだめなんです」  
「美しい心でいたいと思うの。それが今の願いかしら」

浅草神社奉賛会会長 鈴木秋雄 102歳

「ラバウルから戻った時、浅草は一面焼け野原だった。店を、祭りを復興させ、氏子四ヶ町を束ねる筆頭総代は、今なお三社祭で神輿を担ぐ。」  
「明日をも知れない戦場をくぐり抜けてきたから、どんなことがあっても驚かなくなった」

児童文学者 森比左志 101歳

「敗残兵として貨物列車へ潜り込んで故郷へ戻り、教壇に立つ日々を変えたのは、恩師からの一通の電報だった。『ヨウアル、スグコイ』」  
「やがて最期の時を迎えた妻の枕辺で、森が捧げたのはこんな言葉であった。『もうこれで苦しまなくてすむんだよ、よかったねママ、よかったねママ』」

菓心あづき庵 田谷きみ 103歳

「103歳の“看板娘。”」

「歳はとるものじゃなくて忘れるものと思う。“いま”を生きるいのちの輝きを撮り続けることで、笹本もなお枯れることなく咲き誇る。女はいくつになっても、紅いバラでありたい…」

剣道家 太田博方 103歳

「剣道は、愛に始まって愛に終わる。そして人生もまた、愛に始まって愛に終わる。それは、103歳現役剣士がなお熱き胸に秘める矜持である。」

「さらに長生きして東京オリンピックの開会式をこの目で見たい」

言語学者 川崎桃太 103歳

「フロイス『日本史』の第一人者」

「再び祖国に会えた喜び。それはもう言葉にすることはできません。見るもの、聞くもの、何もかもが愛しく、懐かしくて、あの感動は忘れられませんね」（ブラジルからの帰国）

「103歳になった川崎は『これも天から与えられた命』と、今なお書斎で机に向かう。」

俳人 後藤比奈夫 101歳

「『俳句は心で作って心を消し去るもの』と説きました。やはり心がなかったら俳句は作れません。ならば充分に心を使って写生をし、最後にできあがった形からは心が見えないようにする。」

「柔らかな心というのがいちばん大事です。そのためには心を謙虚にして目線を下げる。物を見るのに高いところから眺め降ろしているのはあまりよくない。人に接するときはもちろん、物を見るにも、言葉を選ぶにも、謙虚な心が大切。心の目線を低く穏やかにしていると、身の周りの何もかも、出てくる言葉までもがいとおいしいものに見えてきます」

あとがき

（健康寿命について）「取材で出会った方々は誰しもとりたてて秘訣はないのだと語り、日々の積み重ねを淡々と顧みるだけ。それでも乗り越えてきた苦難は計り知れず、命を賭する体験や病苦も経ていた。だからこそ、なお限りある命を愛する家族や後進に尽くしたいと願う。それこそが生きる活力になっているように見えた。」

◆知識の俯瞰◆ 知的腕力を鍛える4

知的腕力とは情報の収集、分析、編集のスキルだと言いましたが、その領野について一定程度の知識が前提です。ここでは「なぜ日本は今輝きを失った国になったのか」をネットで情報収集し、それを時系列的に分析し、編集してみたいと思います。

ネットでの情報の収集は出口すなわちアウトプットをきちっと意識して行えば効率的で質の高い情報が収集できます。検索をしていくと新しい検索のヒントが浮かんできます。今回は日本がプラットフォームビジネス、自動運転車、人工知能などの分野で気がつくアメリカに大きく差をつけられたのか、どこで間違ったのかを検証するという視点でやってみました。

今、先端技術の分野で産業をリードしているのは GAF A すなわち Google、Apple、Facebook、Amazon です。すなわち巨大なプラットフォームをネット上に築いてそこから吸い上げたビックデータでスケラブルな情報サービスを展開し、巨額の収益を上げている企業です。

日本企業だけでなくアメリカでも GE や IBM といった、かつての先端技術のリーダーだった巨大企業も没落しています。日米に共通の敗因があると思います。結論から言えば「既に起きていた未来」を事業の再定義に組み入れずに、従来からの収益源に拘泥し、気がつけば時代に取り残されてしまったということです。20 世紀のビジネスモデルのまま、21 世紀を迎えてしまったことです。例外はマイクロソフトで、一時は創業者のもとで先頭集団から脱落しましたが、新しい CEO のもとで GAF A と対等に戦う状態に再生しました。

1990 年から 1995 年でインターネットという革命的な、そしてグローバルな情報通信のインフラストラクチャーが実現しました。WWW とブラウザが情報通信網をビジネスインフラにしました。そして Windows 95 は個人がその新しいビジネスインフラにつながることを可能にしました。驚くことにジェフ・ベゾスはその前の 1994 年に Amazon を立ち上げて EC を始めています。未来が見えていたのでしょうか。同じように目の前に出現したビジネスインフラに未来を感じたラリー・ページとセルゲイ・ブリンは、検索エンジンで 1998 年に Google を立ち上げました。彼らの未来を信じたジェフ・ベゾスは投資して支援しました。成功が成功を支援するという正のスパイラルモデルが動き始めました。

ほぼ同じ時期に中国でも 2 つの創業がありました。1998 年のテンセントと 1999 年のアリババです。2000 年初頭にはテスラモーターと Facebook も創業しています。そして現在の時価総額のベストテンのメンバーが出そろいました。

日本では IIJ がプロバイダーとして創業し、ニューヨーク市場に上場しましたが、スケラブルなサービスビジネスを本格的に展開することなく凋落していきました。富士通や NEC、ソニーという当時の先端技術企業は、この 100 年に一度の時代を見過ごしています。パソコン通信という事業はしましたが。

コンピュータの巨人であった IBM も、汎用コンピュータービジネスという金のなる木を握り続けて新しい時代に対応できずに結果として凋落しました。当時 IBM は、技術はありましたが、カニバリズムの恐怖でネットワークとパソコンのビジネスを本気でやりませんでした。戦略論としては社内で議論していましたが、事業部はむしろ新ビジネスを敵視していました。

Apple を創業しながら会社から追われていたスティーブ・ジョブスが、2000 年に復帰しました。彼はソニーのウォークマンを超える iPod を世に出して世界に号砲を放ちました。そして 2007 年にスマートフォンという、持ち歩きができ、通信もできる、そして電話も掛けられるというコンピュータを再発明しました。それから 10 年、スマートフォンが世界を変えました。このスマートフォンに関連したビジネスと、そうでないビジネスで勝者と敗者という格差ができました。

自分が目指すビジネスモデルが途方もない情報処理能力を必要とすることを認識した Google は 2004 年にコンテナサーバというコンピュータの再発明をしました。たった一人のエンジニアしかいなかったと言われていています。Amazon はこれに着目しクラウドコンピューティングという新しいビジネスを立ち上げました。現在では Amazon のドル箱です。

この時代に、日本は何をしていたのか探していましたが、1992 年に第 5 世代コンピュータプロジェクトが終了しています。世界に先駆けた人工知能技術開発のプロジェクトでした。しかしその成果はほとんど残っていません。むしろこの失敗から、この後しばらく政府も民間も人工知能から距離を置いていました。ある企業では人工知能という言葉が入ると予算がつかないので、別の表現で人工知能研究を続けるしかなかったと言われていています。

Google の急成長を見て、さすがに政府も対抗策を打ち出す必要を感じ「情報大航海プロジェクト」という日の丸検索エンジンの開発を打ち出しましたが、既存の大企業に 150 億円配っただけで終わりました。もともとなぜやるのか疑問視されていました。

そもそも Google や Amazon などは政府の補助金をもらっていません。政府の補助金でイノベーションを起こすというモデルそのものが間違っているのでしょうか。このモデルは半導体産業界の「超 LSI 開発プロジェクト」以後ほとんど成果を出していません。

むしろ先端技術企業を補助金に頼る体質にして、結果として産業界全体を衰退させました。

一方 Google は人工知能を全ての事業で追及することをビジョンとして掲げ、英国、カナダを含め人工知能の人材を集め、人工知能技術のリーダーとなり、自動運転でも先頭を走っています。

インターネットとスマートフォンが開いた巨大なビジネス空間では Airbnb や Uber のようなシェアリングエコノミーが勃興し、既存の産業界に破壊的な衝撃を与えています。とりわけ自動車産業は EV 、自動運転、シェアリングという 3 重の衝撃を受け大変革をやむなくされています。主役の交代と関連業界の衰退が予想されます。

以上から 1990-2010 年で日本は時代に乗り遅れたということがわかります。不幸にもこの時代はバブル崩壊後で、日本人が委縮していた失われた 20 年でもありました。2010 年以降は人工知能で周回遅れです。

では 1995 年の段階でその後の大変化を認識できたかどうかということが問題です。1995 年に私はパソコンビジネスの渦中にいました。マイクロソフトと対峙していましたが勝てない戦だということは強く認識していました。スティーブ・ジョブスが Apple を出て作ったピクサーという会社がコンピュータグラフィックスだけで作り上げた「トイ・ストーリー」という映画もアメリカで封切りを見ました。時代は変わる、と思いました。と思いましたがその先どう変わっていくのか分かりませんでした。あの時もっと関連情報集め、直接イノベーションを起こしている人と話すことができればもっと正しい認識ができたかもしれません。その時代に Amazon も Google も未来を感じて創業しているのですから。シリコンバレーは時代の風を感じさせる空間だったのです。

今の世界が作られた 1990-2010 年

- 1990 CERN のティム・バーナーズ・リー WWW を実装
- 1992 第五世代コンピュータプロジェクト終了(1982 開始)  
日本の IJ 社 設立
- 1993 NCSA のマーク・アンドリーセン Mosaic を開発・リリース
- 1994 Amazon 設立
- 1995 インターネットの商業化  
マイクロソフト社が Windows '95 を発売
- 1998 Google 設立  
テンセント設立
- 1999 アリババ設立
- 2000 スティーブ・ジョブスが Apple の CEO に復帰する
- 2001 Apple iPod 発売
- 2003 テスラモーターズ設立

- 2004 Facebook 設立
  - Google がコンテナサーバの特許
  - Google Map サービス開始
- 2006 Amazon (AWS)開始 クラウドコンピューティング
- 2007 iPhone 発売
  - 情報大航海プロジェクト
- 2008 Airbnb サイト開設
- 2009 Uber 設立
  - Google が自動運転車の公道実験開始
- 2010 DeepMind 設立 (2014 年 Google 買収)
- 2012 ヒントン教授のトロント大学のチームがディープラーニングで人間を超えた
- 2015 Google の全自動運転カーが公道走行
- 2016 打ち上げたロケットを垂直に「着陸」させる事に成功
- 2017 Google の AlphaGo が世界トップ棋士に勝利
  - Uber が初の自動運転トラックでの輸送に成功

#### ◆雑感・妄想◆

以上も雑感・妄想ですが、出来る限り参照データを紹介しています。個人のブログは面白いですが、個人的な偏りがありますから、できるだけメジャーなメディアを引用しています。

外国人労働者の受け入れ法案の過程で、現在の技術研修生の実態が報告されましたが、あまりの酷さに愕然としました。日本という国の品格が疑われます。

次々と明るみになる大企業の不正にも、日本という国の品格が出てきました。いつからこんな国なってしまったのでしょうか。

トランプ大統領は記者暗殺について、サウジの皇太子の関与なしという政治的な発言をしましたが、国際社会は到底受け入れないでしょう。ここでもまた孤立しました。閣僚級の人事を進めるようですが、マティス国防長官には、是非残ってもらいたいです。彼は侍ですから。

全く虚しい憲法改正の議論ですが、公明党が合意しませんから、国民投票に行かないと思います。イギリスの例にあるように、国民投票は周到な議論がないと危険です。

北方領土の問題が歯舞色丹の返還で落ち着きそうですが、これが現実的な落としどころでしょう。できれば国後択捉周辺の漁業権が欲しいところですが。これは安倍首相は

かなり本気で決着をつける感じですが、国民も現実的な判断で対応する必要があります。

-----

◆内容・記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は下記まで  
webmaster@fukan.jp

-----

◆俯瞰 MAIL83号 (2018年11月29日)

発行元：一般社団法人俯瞰工学研究所

発行人：松島克守

編集長：松島克守

配信人：石川公子

URL：<http://fukan.jp>